

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月26日更新

事務事業名	重度心身障害者医療費助成事業				マニフェスト 関連	全庁横断 課題関連	集中改革 プラン関連
総合 計画 体系	政策	2	福祉の健康		所属部	健康福祉部	課長名 三苦 幸浩
	施策	8	障がい者(児)の自立と社会参加の促進		所属課	福祉課	担当者名 富田 大貴
	施策の柱	29	障がい者(児)への総合的な支援及び福祉サービスの充実		所属班	障がい福祉班	(内線) 2124
予算科目	会計 一般	款 3	項 1	目 3	事業連番 10529	根拠 法令	熊本県重度心身障害者医療費助成事業費補助金補助金交付要領、 合志市
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	重度心身障がい者(身体障害者手帳1・2級、療育手帳A1・A2、精神障害者保健福祉手帳1級所持者)の医療費の負担を軽減するため、医療費の一部(通院の場合1医療機関につき月に1,020円、入院の場合1医療機関につき月に2,040円を超えた分)を助成する。※所得による支給制限あり。重度心身障がい者の医療費の負担を軽減するため、昭和48年度より実施。平成18年施行の障害者自立支援法の影響により、助成対象経費の範囲が拡大した。また平成20年度から、はり、きゅう、あんま、マッサージ、柔道整復等の施術費も助成対象経費となった。
【業務の流れ】	①受給資格者認定申請受付(新規手帳交付者等)→受給資格の審査、決定→受給資格者証の交付②毎年8月に受給資格の見直し(所得状況の確認)③医療費の助成申請受付→審査→助成金の支給(診療月の3月後の25日)
【主な予算費目】	報酬、印刷製本費、役員費、扶助費
【意見や要望】	重度障がい者世帯の経済的支援策として有用なものとなっている。 特に要望等は見られない。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO)	29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
重度心身障がい者の医療費の負担を軽減するため、医療費の一部を助成した。	重度心身障がい者の医療費の負担を軽減するため、医療費の一部を助成する。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 千円	予算の主な増減の理由
→ア:助成金額	千円	電算入力事務補助員の通勤加算報酬(2千円×12月)と、重心受給者証印刷代(2年に1回)が増額となった。
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	重度心身障がい者の医療費の受給資格者。	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
		→ア:受給資格者
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	重度心身障がい者の医療費の一部を助成することにより医療費の軽減を図る。	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
		→ア:延べ助成人数
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
重度心身障がい者の医療費負担の軽減を目的とした事業であり、延べ助成人数を指標とした。		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込	
①活動指標	ア	千円	83,512	85,141	84,000	83,681	85,000	86,000	87,000	88,000	
	イ										
②対象指標	ア	人	1,095	1,061	1,110	1,060	1,110	1,110	1,110	1,110	
	イ										
③成果指標	ア	人	5,071	5,252	5,100	5,098	5,100	5,100	5,100	5,100	
	イ										
投資 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円	41,503	41,442	42,600	44,364	42,600	42,600	42,600	
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	43,061	44,259	43,688	40,097	43,779	43,688	43,688	43,688
	(A)事業費計	千円	84,564	85,701	86,288	84,461	86,379	86,288	86,288	86,288	
	(A)のうち指定経費	千円	84,476	85,576	86,190	84,363	86,223	86,190	86,190	86,190	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	3	6	3	3	3	0
	延べ業務時間	時間	795	795	520	1,360	520	520	520	520	
	(B)人件費計	千円	3,167	2,951	2,071	0	2,071	2,071	2,071	2,071	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	87,731	88,652	88,359	84,461	88,450	88,359	88,359	88,359	

事務事業名	重度心身障害者医療費助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	----------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②29年度目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 障がい者手帳所持者、申請件数が増加傾向にあり適切な支給決定に努める。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 制度周知等は行っており、現状において向上余地はない
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はなく統合できない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 経済的支援のため削減余地はない
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 非常勤職員の任用により医療費の端末入力等をしてもらっており、職員の業務を軽減している
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 所得要件を設けており公平である
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 重度心身障がい者の医療費負担を軽減する事業であり、市が実施することが適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

重度心身障がい者の医療費負担の軽減を目的とした事業であり、助成件数が増加している。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策